



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第9週報 No. 1945 2016年(平成28年) 9月2日 第1945回 例会記録 9月9日発行

本日〈9月9日〉のプログラム

- ◆ 齊 唱 「我等の生業」
- ◆ 献 立 洋食弁当
- ◆ 卓 話 「がんを遠ざける生活習慣」
 国立がん研究センター 社会と健康研究センター
 センター長 津金昌一郎 様
 (紹介者 江森 国一 会員)

<< 本日のBGM >>
 アルバム 「ウクレレ～陽だまりの旋律～」より



PHOTO 加野亮一 会員

司 会 白鳥 厚夫 副幹事

点 鐘 植田 清司 会長

齊 唱 「君が代」 「奉仕の理想」

四つのテスト 鴻 義久 職業奉仕副委員長
 (第1例会のみ)

ゲスト紹介

高良 明 様 (第2590地区 ガバナー)
 樋口 明 様 (第2590地区 第4 G ガバナー補佐)
 川邊 裕 様 (地区幹事)
 中静三枝子 様 (例会見学者)
 ガンスフ・ゲレル 様 (米山奨学生)

特別行事

◆ 米山奨学金贈呈



米山奨学生 ガンスフ ゲレル 様

2016-2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム



第2590地区 ガバナー 高良 明

会 長 植田 清司	会 計 白井 康夫
会長エレクト 矢野 修二	副 会 計 河野 明光
副 会 長 西山 潔	S A A 田中 龍太郎
副 会 長 伊東 英紀	副 S A A 茂木 知子
幹 事 小山市 康	副 S A A 吉田 隆男
副 幹 事 白鳥 厚夫	クラブ会報 加野 亮一

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

会長報告

植田 清司 会長

- 前年度に、40周年記念事業の一環と致しまして行いました米山奨学会へのクラブ創立記念特別寄付に対し、米山奨学会より記念の盾が届いておりますので、高良明ガバナーから40周年記念事業実行委員長吉田隆男会員に贈呈をお願い致します。



- 8月度定例理事会報告

幹事報告

小山 市康 幹事

- 先週に引き続き、地区大会記念熊本地震・東日本大震災チャリティーディナーパーティーとチャリティゴルフの案内を回覧致します。
- 次週、例会終了後に9月度定例理事会を開催致します。
- 本日、例会終了後にガバナーとの懇談会を開催致します。大勢の出席を宜しくお願い致します。

委員会報告

雑誌委員会 委員 石川 正三

【『友』9月号について】

『友』縦組みにある「趣味のページ」のうち、「柳壇」に狙いを定め、当委員会では今月中に「クラブ川柳の会」を発足させ、近い将来、毎号必ず会員の誰かの作品が載る作戦を展開することになった。

同じ縦組みの目玉企画で、8月号から新しく始まった「クラブを訪ねて」の企画に是非参加したい。10月9日、恒例の募金活動がハイライトだが日時が迫っており、今年ダメなら来年採用されるよう『友』に提案してはどうか。9月号の箱根RCの記事をまずお読み下さい。

米山奨学委員会 委員長 天野 公史

去る8月28日(日)国際ロータリー第2590地区米山記念奨学会の夏季レクリエーションに、当クラブより植田会長、米山奨学生ゲレルさんと3名で参加して参りました。

ホテルキャメロットジャパンを雨模様の中出発し、山梨へと旅立ちました。途中休憩をとりながら見晴し園での巨峰狩り、次に昇仙峡、その後山梨マルスワイナリーの見学と試飲、現地では1日中天気恵まれ、学友及びロータリアンもとても素敵な笑顔の溢れた夏季レクリエーションでした。

スマイルボックス

吉田 隆男 副SAA

第2590地区 ガバナー 高良 明様 今年度、ガバナーを拝命しました川崎西RCの高良です。どうぞよろしくお願い致します。併せて、神奈川東RCの益々のご発展と皆様のご健勝を、心よりお祈り致します。

第2590地区 第4G ガバナー補佐 樋口 明様 本日は、高良ガバナー公式訪問で、皆様にお世話になります。よろしくお願い申し上げます。

第2590地区 地区幹事 川邊 裕様 本日は、高良ガバナーの件で参りました。宜しくお願い致します。

植田清司君 ①高良ガバナー、樋口明ガバナー補佐、本日はよろしくご指導下さい。②中静三枝子様、ようこそいらっしゃいました。楽しいひと時をお過ごしください。

富居利貞君 高良ガバナー公式訪問、ご指導の程、宜しくお願い致します。

石川正三君 高良ガバナー、ようこそ。お話もゆっくり聞かせて頂きます。

鴻 義久君 高良ガバナー、樋口ガバナー補佐、本日は宜しくお願い致します。

岩澤利雄君 高良ガバナーの公式訪問を歓迎して。

月山 勇君 高良ガバナー、ようこそ。ご指導宜しくお願い致します。

山本 登君 残暑厳しいですね。

伊東英紀君 高良明ガバナー、本日は当クラブ訪問ありがとうございます。卓話、楽しみにしています。

河野明光君 高良ガバナー、当クラブへようこそ。ご指導下さいませ。

山田正憲君 高良ガバナー、本日はご指導の程、宜しくお願い致します。

小山市康君 高良ガバナー、樋口ガバナー補佐、川邊地区幹事、ようこそいらっしゃいました。本日の懇談会に至るまで宜しくお願い致します。

澁谷高弘君 高良明ガバナー、樋口明ガバナー補佐、本日はよろしくご指導お願い致します。

西山 潔君 高良ガバナー、樋口ガバナー補佐、本日はよろしくお願い致します。

茂木知子さん ~紳士、実は、むつつり〇〇~月山氏の同級生という女性、月山氏をべた褒め、「紳士なの、一番の紳士だわ」。私は、月山氏の家業が水道屋さんなので「月山氏は実は、むつつり〇〇」と水を差しておきました。

吉田隆男君 ①高良ガバナー、樋口ガバナー補佐、本日はよろしくお願い致します。②ロータリークラブの例会を見学ということで司法書士の中静さんをゲストでお招きしました。

9月2日	18件	58,000円
本年度累計		423,000円

出席報告

但野真実子 出席委員長

会員総数	49名	(29+20)名	
出席会員数	39名	(24+15)名	
出席率	88.64%		
ゲスト	5名	ビジター	0名
前回補正後	85.00%	前々回補正後	87.50%

ガバナー公式訪問

国際ロータリー第2590地区 ガバナー 高良 明 様



ご紹介頂きました本年度ガバナーを拝命いたしました川崎西ロータリークラブの高良と申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆様には日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

1. 人生の幸福とは（人生の意義について）

（1）生きる意味

「生(しょう)を明(あき)らめ死を明(あき)むるは、仏家(ぶつ)け一大事の因縁なり」（「修証義」道元禅師1200-53）

人間はこの世に生まれた以上、必ずやいつか死ぬものですが、避けることのできない厳粛な死を見つめることによって、はじめて生きる意味を理解し、幸福の人生を送れるものです。人生は苦の連続とも言えますが、その中にこそ真の生きる意味があります。

ナチスドイツによる強制収容所での800万人ともいわれる組織的集団虐殺（アウシュビッツ収容所だけで300万人）の体験記録をまとめた、精神科医のユダヤ人ヴィクトール・E・フランクルの「夜と霧」を読むと、内面的拠り所、希望とか生きる意味、

勇気、愛、奉仕を失った人間は、皆崩壊していった、と記されています。

（2）幸福の四角形

人間は古今東西、生ある限り幸福を求めてやまない動物ですが、それでは一体何が幸福と言えるのでしょうか？病気の人間にとっては「健康」であることが、愛情から見放されている人間にとっては「愛情」に充ちることが、財の乏しい人間にとっては「財産」があることが、夢を求めている人間にとっては「自己実現」を叶えることが幸せであると言えるでしょう。人間は欠乏しているものを求める欲求本能がある動物だからです。

アメリカのある心理学者が、「幸福」とは何か？について大勢の方を対象にアンケート調査をしたところ、次の四つに分類できたそうです。

- ①健康
- ②愛情
- ③富
- ④自己実現（自己表現）

この四つのカテゴリーがバランスよく伸びている状態が「幸福」と定義しました。また古代ギリシャの大哲学者アリストテレスは、「善」をもって「万物の希求するところ」として、「善く生きる」ことが幸福にほかならぬとしました。アリストテレスは、「幸福」とは人間固有の卓越した能力や徳をもって善く働いている（奉仕）状態と考えたようです。

人によって定義は異なりますが、上記の富や自己実現、あるいは卓越した能力や徳の働きなどは、大いに人間関係や職業、仕事に関係があるものと思います。

2. 職業の意味と職業奉仕

それでは職業や仕事と言われるものは、どのような意味や価値があるのでしょうか？

解雇された人の幸福度は、失業給付を高額にしても回復しないとわれ、英国の経済紙「エコノミック・ジャーナル」の13万人を対象とした追跡調査では、「人生の出来事のうち、幸せに最も影響するのは長期にわたる失業状態であり、1年以上の失業が続いた人の幸福度は元に戻らない」と報告されています。それほど人間にとって仕事は重要な人生問題であり、善く生きるか否か大きな課題です。

（1）職業（仕事）の意味と価値

職業（仕事）の捉え方はさまざまですが、これを整理すると次の四つのカテゴリーに分類できます。

- ①生計維持のため（資命・命をたすける）
- ②自己実現のため（志命・自己の望みを全うするため）
- ③組織維持のため（支命・組織の維持継続のため）
- ④社会奉仕（貢献）のため（使命・天職として）

このように「職業」（仕事）そのものに、自己への奉仕、他人への奉仕、社会への奉仕という奉仕の意味が内包しています。

（2）ロータリーの目的と職業奉仕

「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念

を奨励し、これを育むこと」にあるわけで、これをロータリーの目的としてロータリー運動が展開されてきたわけです。職業奉仕がロータリーの金看板と言われる所以です。

1989年の規定審議会における「職業宣言」において、「職業は奉仕の一つの機会」として規定されており、職業奉仕とは、職業を通じて自己をも含めて、社会や他人のためになることと定義できそうです。「職業奉仕」は原語では、「Vocational Service」ですが、これは先に述べた天職、使命に基づいた職業の意味で、職責を尽くし、社会のためになる事業を営むことが大切であることを物語っています。

渋沢栄一（1840～1931）は、幕末から明治に生きた方で、株式会社500社、非営利企業600社ほどを立ち上げた日本近代資本主義の創始者です。「ビジネスは倫理に基づく限り、決して卑しいものではない」として、「道徳経済合一説」「論語算盤説」を説きました。

様々な農政改革をした二宮金次郎（1787～1856）は、「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」と言っています。

松下幸之助さん（1894～1989）は、尋常小学校を中退し、満9歳で大阪船場に丁稚奉公をして、商いの基本を学んで、ナショナルブランド世界の総合電機メーカー松下電器産業（現在はパナソニック）を創り上げた経営の神様と言われた方です。

「営利と社会正義の調和に念慮し国家産業の発達を図り社会生活の改善と向上を期す」と綱領に謳い、「商売は世の為、人の為の奉仕にして、利益はその当然の報酬なり」と強調しております。シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの実践倫理の哲学と似ている言葉です。いずれも職業奉仕を全うされた方だと思います。

3. 地区方針

さて、今年度R I 会長ジョン・ジャームさんは、「人類に奉仕するロータリー」(Rotary Serving Humanity) とR I テーマを掲げました。このテーマは、ロータリーそのものの普遍的なテーマとあってよいでしょう。Humanityという言葉には、①人類②人間性③思いやり、といった意味がありますので、「思いやりを持って人に接し、自分自身の人間性（高潔性）を高め、人類に奉仕する」こととなり、まさにロータリー運動そのものの本質といえます。私は、これを受けて地区方針を「クラブの魅力創りと活性化」といたしました。

魅力創りには、①ロータリーの目的や意義、使命を理解すること（Mission）。目的や意義、使命を理解せずして、善き生きることではできません。人生の意味を理解せず充実した幸福な人生を送ることはできないのです。②会員、人を尊重し大切にすること（Member、組織は人なり）。心理学者のアドラーという人は、すべての悩みは「人間関係」であると言っております。人間は他者を前提に生きているからであり、一人では生きていけないからです。対人関係を抜きにしては人生語ることはできません。③クラブ運営をしっかりと適切に行うこと（Management）。人生や組織をより良く効果的に運営することがビジョンや目標達成への必要なことです。

組織の魅力創りには、少なくともこの3つのMが必要です。

しかしながら、皆さんご承知の通り、この4月の規定審議会において、ロータリーの方針の見直しが行われ、クラブ運営に大幅な変更、いふなれば「柔軟性」を認める決定が下されました。入会金、例会運営、出席要件、会員種類等、大変重要な変更がなされました。クラブ細則を変更して独自のクラブ運営ができるという、大変自由な柔軟性のある規定に変更されたわけです。したがって不易と流行、統一性と独自性や多様性をどのようにバランスをとるか、クラブの真価が問われることとなりました。

どうか十分お考えいただき、見識のある適切なお判断をお願いしたいと思います。

さて、具体的な地区方針に基づく戦略といたしまして、まず本年度は、ロータリー財団の父と呼ばれる6人目のR I 会長、アーチ・クランプが、1917年アトランタ国際大会で「ロータリーの基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、何かよいことをしよう」と呼びかけて100年となります。この記念すべき年度におきまして、地区ではR財団100周年記念委員会を設け、岡本P Gに委員長をお願いいたしました。地区大会をはじめ、様々なイベントにおいて、R財団100周年を祝ってまいりますので、ご協力のほどお願いいたします。

また「ロータリー財団100周年を祝おう！」ということで、日本ロータリー学友会主催にて、この11月27日（日）ジョン・ジャームR I 会長を迎えて、「ロータリー財団100周年シンポジウム」がJ Pタワーホールにて開催されます。多数のご参加をお願いいたします。詳細は追ってご連絡いたします。

①今年度のI Mを地区全体統合して、職業奉仕を中心とした「経営大講演会」を来年4月22日（土）神奈川県民ホールで実施いたします。委員長に箕田直前ガバナーになって頂き、横浜商工会議所及び川崎商工会議所のご支援も頂くことになっております。企業が永続する条件など職業奉仕、経営のあり方を中心に講演やシンポジウムを開催する予定でございます。ロータリアンはもとより一般事業者の方も呼び寄せて、ロータリーのことを少しでも分かって頂き、ロータリー財団100周年を記念し、また広報・公共イメージ向上につなげたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

②また地区社会奉仕委員会、広報・公共イメージ向上委員会が中心になり、身障者にも参加頂いて、来年の2月頃に「チャリティマラソン大会」をロータリー財団100周年記念の一環として、大野P Gの委員長のもとに実施する予定です。

③来る11月11日、12日の2日間にわたり地区大会をパシフィコ横浜会議センターで執り行います。1グループ2クラブの奉仕活動事例発表やクラブブースを設け、クラブ参加型の地区大会にしてまいりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

④また地区内クラブの活性化の一助として、「卓話バンク」を設けました。登録者は現在35名ほどですが、神奈川東ロータリークラブさんにも大勢卓話者としてご登録頂きますようご協力のほどお願いいたします。

⑤またクラブ会長のご協力を頂いて、「クラブの活動状況調査」を作成いたしました。会長中心に将来のビジョンを設定され、戦略計画を立てるべく、ご活用頂きたくお願いいたします。

⑥地区は会員減少が著しく、会員増強は喫緊の課題です。会員増強の目的は、①多様性のある友人をつくる、②「奉仕の理念が人間の幸福と世界の平和につながる」ことを知ってもらう、③きめ細かい価値ある奉仕活動を行う、④クラブの存続にあります。前年度は二つのクラブが消滅してしまいました。大変残念です。どうか会員増強の趣旨・目的をよくご理解いただき、植田会長の下、皆さんがロータリーの伝道師になって頂き、「クラブの魅力創りと活性化」を果たすべく、会員増強にご尽力頂きたくお願いいたします。

最後になりますが、神奈川東ロータリークラブの益々のご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、卓話を閉じたいと思います。ありがとうございました。

ガバナーとの懇談会開催

例会終了後、ガバナー、ガバナー補佐、地区幹事を囲んで懇談会を開催致しました。活発な意見交換がなされ、大変有意義な懇談会となりました。



ロータリーニュース

多様性と受容を呼びかける若き起業家

ファイエットビル・ロータリークラブ（米国アーカンソー州）に所属するトッド・ジェンキンズさん（28）は、何をすることも家族代々で自分が初めてだと話します。大学進学も、飛行機に乗ったのも、外国どころか州外に出たのも、彼が初めてでした。

ジェンキンズさんは、米国サウスカロライナ州コロンビアの、低所得家族が多く住む地域で育ちました。家族は食べていくだけで精一杯。大学進学や旅行など、自分には到底無理だと考えていました。

10人兄弟姉妹の長男であるジェンキンズさんの目標は、このような現状を打開し、兄弟姉妹の模範となることでした。目標をかなえたジェンキンズさんは、これを「母のおかげ」と話します。同じ地域に住むほかの多くのアフリカ系アメリカ人の若者と同じ道に走らないようにと、母親はジェンキンズさんを懸命に支えました。

「希望のない貧しい黒人男性には、3つの道があります。それは、ギャングか、刑務所か、もしくは死です」とジェンキンズさん。

「これらの道に進まないように、母は、私が勉強や生産的な活動に励むよう手を尽くしてくれました。ですから、本もたくさん読みましたし、教会の活動にも参加していました」

母親の支えと自身の努力によって、ジェンキンズさんは優秀な成績で高校を卒業。奨学金を受けてサウスカロライナ大学に進学し、イリノイ州立大学の大学院で学位を取得しました。家族代々で自分が初めての成功者であることには、大きな意味があると言います。

「私たちは、既成の道を進むわけではありません。自分の道は自分で開かなければならないのです」

こう話すジェンキンズさんは、少数民族の専門的能力の開発をテーマとして修士号と博士号を取得しました。

「私は、あらゆるリソースを活用し、自力で障壁を取り除かなければなりません。そうしなければ、お決まりの道をたどっていたでしょう。私の家族もこれで、なりたい人間になれるという選択肢に気づいてくれたことを願っています」

ロータリーが世界を開く

ジェンキンズさんは2012年、博士号を取得するためにファイエットビルに移住し、アーカンソー大学で事務の仕事を始めました。キャンパスライフだけでは飽き足らず、地域社会に参加する方法を探していたところ、それを知った大学総長からファイエットビル・ロータリークラブの例会に招かれました。以来、すっかりロータリーにはまってしまったそうです。

「ロータリーについて何も知りませんでしたが、2回ほど例会に出た後、ロータリーのプログラムに魅了されました」とジェンキンズさん。

「例会でスピーチをしていたのは、ファイエットビルを動かしている人たち。例会に行くことは、まるで地元の歴史に関する授業に出ているようでした」

24歳でロータリー会員になったジェンキンズさんは（これも家族で初めて）、会員数200人以上のクラブでだんとつの若さ。しかし、だからといってクラブでリーダー的役職に就くことに躊躇しませんでした。

入会後まもなくして、彼はロータリーの交換プログラムでブラジルを訪れ、生まれて初めて飛行機に乗り、外国の地を踏み歩きました。「まったく新しいロータリーの体験だった」と振り返ります。

ブラジルで3カ月、博士論文の準備をしながら、ブラジルの大学が少数民族の学生をどう受け入れているかを学びました。しかし、そこでの経験は学問以上の意味がありました。それまで考えたこともない形で、人を思いやる心を学んだそうです。

「アメリカにいる自分の家族に対するのと同じ感情を、ブラジルのホストファミリーに感じました。文化は違いますが、共通点も多いのです。……違うやり方、違う風習に触れたことで、自分の中に種がまかれました。この種は、今の私の活動の中で花開いています」

多様性と受容を呼びかける

ファイエットビルに戻ったジェンキンズさんは、ブラジルでの経験が契機となって、変化を生み出したいという気持ちが強くなっていました。ロータリークラブの青少年奉仕委員長となり、その次には地区青少年交換役員として地区で一番若いリーダーとなりました。また、クラブのロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）委員長、ローターアクトの大学顧問、インターアクトのアドバイザーなど、次々と重要な役割をこなしました。

ファイエットビル・クラブのハリソン・ピットマン会長に「ジェンキンズさんがクラブにもたらしたことは？」と尋ねると、次の答えが返ってきました。「トッド（ジェンキンズさん）がクラブにもたらさなかったことはありませんよ」「トッドが入会した日から、彼は多くの意味でリーダーでした。常にロータリーの理念を推進し、会員増加に貢献しました。（中略）トッドは、今、そして未来のロータリーの模範となれる、類まれなロータリアンです」

地区での研修も受け、クラブの目標に向けて次々と結果を出していきました。

あるとき、クラブの210人の会員のうち、たいいてい40～50人が、食事代を払っているにもかかわらず例会を欠席していることに気づきました。例会で目立つ空席に「機会」を見出したジェンキンズさんは、クラブ理事会に「35歳未満のルール」を提案。それは、これらの空席を利用して地元の若い職業人を例会に無料で招待し、しかも、その中から入会者が出た場合、その人の会費と入会金を半額にする、というものでした。2年前にこの取り組みを始めて以来、12人の新会員が入会しました。

「ロータリーに触れる機会がなければ、人びとは私たちの活動をどうやって知ることができるでしょうか。会費を安くするなどして若い職業人を優遇すれば、ロータリーに欠けているものをバランスよく補えます」

ピットマン会長も熱意を込めてこう語ります。「ロータリーへの入会を考えている若い職業人は、時間や経済的な制約に縛られています。（中略）『35歳未満のルール』は、若い人たちの事情を理解し、一緒に地域社会や世界を変えていきたいという当クラブの姿勢を表しています」

多様性とは「豊かさ」

ロータリーの外では、リーダーシップ開発を専門とする国際的会社、Bowtie Developmentを設立。同社のCEOとして、多様な人材を集めることで組織の生産性と業績を高めることに力を注

いでいます。

蝶ネクタイを愛することから「Dr. 蝶ネクタイ」というニックネームで呼ばれています。「このニックネーム、とても気に入っています」と彼は笑います。

今月、ジェンキンズさんは、アーカンソー北西部の複数のロータリークラブが主催した「ヤングプロフェッショナル・サミット」で、リーダー的役割を務めました。このサミットは、自身、職場、地域社会に変化を生み出すために若いリーダーたちのエンパワメントをめざすものです。ジェンキンズさんはこう言います。「私たちの活動を紹介し、ロータリーに触れてもらいたいと考えています」

この目標に向けて、世界中のクラブで多様性と受容についてスピーチをしています。「『多様性』という言葉を特に好んでいるわけではありません。私にとって、多様性とは『豊かさ』を意味します」とジェンキンズさん。「ロータリーは、若い会員や多様な会員に投資することで、これを実現できると信じています。私はよくクラブにこう言います。『青少年交換といったプログラムの参加者をどんどんロータリーに迎え入れていきましょう』と。こうしたプログラムの参加者たちは、グローバルな経験の持ち主であり、この経験こそがロータリーの未来に欠かせないものだと感じています」

「多様性とは、パーティーにみんなを呼ぶこと。受容とは、パーティーに来た人みんなが、自分の踊りたいように自由に踊れることです。ロータリーはそうあってほしいと思います。みんなで踊り続けようではありませんか」



スピーチをするトッド・ジェンキンズさん（米アーカンソー州、ファイエットビル・ロータリークラブ所属）。ジェンキンズさんは、多様性と受容の大切さについて世界中のクラブで講演をしています。

ロータリーニュース

次回〈9月16日〉の予定

テーマ 「2016年規定審議会について」

2012-13年度 ガバナー 露木 雄二 様

（紹介者 石川 正三 会員）